

日本目録規則2018年版のポイント

－書誌データ（図書）の作成・利用のために－



研修の構成

1. 研修の目的とNCR2018の特徴
2. 必須のデータ要素の拡充
3. 情報源の扱い－対等から優先へ－
4. タイトルの扱い－タイトル・ページ優先と誤表示－
5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント
6. 出版表示等－区別の明確化とタイトルとのつながりの重視－
7. 表現種別、機器種別、キャリア種別の追加

1. 研修の目的とNCR2018の特徴



この章では、**研修の目的**を共有するとともに、日本目録規則 (NCR) の **改訂の背景** 及び日本目録規則 2018 年版 (NCR2018) の **特徴** を図書の書誌データを中心に紹介します。

研修の前提：

- この研修では、NCR2018の特徴について、日本語で書かれた図書の書誌データに即して、主要なデータ要素にしぼり、できるだけ平易な用語を使って解説します
- 概念モデル、著作などの著者以外の典拠形アクセス・ポイント、関連については扱いません
- 国立国会図書館におけるNCR2018の適用方法とは異なる場合があります

1. 研修の目的とNCR2018の特徴

(1) 研修の目的

- 国立国会図書館は2021年1月から書誌データ作成にNCR2018を適用
- 国内の書誌データ作成機関も2022年1月から順次NCR2018適用開始
- 流通する書誌データが、NCR2018を適用することで変わっていく
- 記録するデータ要素の増加、情報源の明確化などの変更：
資料の**識別性の向上**、書誌データの**機械可読性の向上**、利用者の**検索性の向上**

⇒NCR2018の**特徴**やNCR**改訂の意義**を理解し、今後の書誌データ作成・
利用に役立てる

1. 研修の目的とNCR2018の特徴

(2) NCRの改訂の背景

社会的背景に対応：

- ・ **資料の多様化**(テキストとデータなど複数の表現を含む電子資料やネットワーク情報資源など)
- ・ **目録の電子化**(カード目録→コンピュータ目録)

国際流通を意識：

- ・ 概念モデル**FRBR**準拠
- ・ 国際目録原則覚書**ICP**準拠
- ・ 英米の目録規則**RDA**との相互運用性



NCR2018

日本独自の事情にも対応：

- ・ 出版慣行(奥付)
- ・ 日本語の特性(読み)

NCR1987から約30年ぶりの
抜本改訂

1. 研修の目的とNCR2018の特徴

(3) NCR2018の特徴：その1

(A) 必須のデータ要素の拡充 (→2.)

カード目録→コンピュータ目録となり記録できる情報量が増え、
的確な検索・資料の特定が可能になった

(B) それぞれのデータ要素の**情報源の明確化** (→3.~6.)

(C) 資料にある情報は、できるだけ**あるがまま**記録する (→4.・5.)

書誌データを参照・コピーして使う図書館も、利用者も、現物と
書誌データを**同定しやすくなる**

1. 研修の目的とNCR2018の特徴

(4) NCR2018の特徴：その2

(D) 新しいデータ要素の追加：**関連指示子**(典拠形アクセス・ポイント(典拠形AP)に付加) (→5.)

資料にあるがまま記録する責任表示における「役割を示す語句」に加え、目録作業者が**判断した役割**を追加して記録するように

(E) 新しいデータ要素の追加：**表現種別、機器種別、キャリア種別** (→7.)

資料の多様化に対応し、資料の**内容的側面**(表現種別)と**物理的側面**(機器種別、キャリア種別)を整理して記録

2. 必須のデータ要素の拡充



この章では、NCR1987の**必須の書誌的事項**とNCR2018の**コア・エレメント**を比較して紹介します。

NCR1987 必須の書誌的事項：

個々のデータ要素のうち書誌データへの記録が必須とされるデータ要素

NCR2018 コア・エレメント：

情報を容易に確認できる場合に書誌データに必ず記録するデータ要素

2. 必須のデータ要素の拡充

(1) 必須の書誌的事項(第一水準) : NCR1987

2.0.5(図書)

本タイトル

責任表示(最初の1つ)

版表示

出版者または頒布者等

出版年または頒布年等

本シリーズ名

ページ数

国際的な書誌データの作成基準である**ISBD**に沿って、最低限の書誌的事項を規定

2. 必須のデータ要素の拡充

(2) 主なコア・エレメント：NCR2018

第0章 付表(図書の場合)

本タイトル

本タイトルに関する責任表示(最初の1つ)

版次、**付加的版次**

出版地(最初の1つ)

出版者(最初の1つ)

出版日付

シリーズの本タイトル、**シリーズ内番号**、

サブシリーズの本タイトル、

サブシリーズ内番号

キャリア種別

数量(資料が完結または総数が判明)

体現形の**識別子**(ISBNなど国際標準を優先)

(NCR2018全体の特徴)

区切り記号などの文字による区別ではなく、データ要素を分けることでシステムでの**扱いやすさが向上**(表示や検索インデックスを分けるなど)

利用者の**利便性の向上**：

- ・キャリア(資料の内容を記録した媒体)が分かる
- ・識別子で資料を特定できるなど

3. 情報源の扱いー対等から優先へー



この章では、書誌データに記録するデータ要素の根拠となる**情報源**(タイトル・ページ、奥付、背、表紙等)の扱いについての変更点を紹介します。

3. 情報源の扱い – 対等から優先へ –

(1) 記述の情報源 : NCR1987

2.0.3(図書)

次の1～4の順に選定

1. **標題紙、奥付、背、表紙**
2. その図書本体の1以外
3. カバー、箱等
4. その図書以外の情報源

※ 標題紙がない場合、最も詳しい情報源を
標題紙の代わりに

※ タイトル、責任表示、出版・頒布等は、
1以外の場合、補記[]

標題紙、奥付、背、表紙は、
原則として対等

3. 情報源の扱い – 対等から優先へ –

(2) 優先情報源 : NCR2018

#2.0.2(図書の場合)

次の1～4の順に選定

1. **タイトル・ページ**(旧 : 標題紙)
2. 1が不十分または1がない
 - a. **奥付**
 - b. **背・表紙**または**カバー**
 - c. **キャプション**
3. 1・2にタイトルが表示されていない
 - a. 資料自体の他の情報源
(刊行時の容器は資料自体の一部)
4. 資料自体にタイトルが表示されていない
 - a. 資料外の情報源 ※4の場合、補記[]などで明示

情報源に優先順位の**差**がついた

目録作業員 : データの**選定ルール**が明確に
利用者 : データの**根拠**が明確に

4. タイトルの扱い

–タイトル・ページ優先と誤表示–



この章では、タイトルの**情報源**及び**誤表示**の場合の扱い
についての変更点を紹介します。

4. タイトルの扱いータイトル・ページ優先と誤表示ー

(1) 情報源の扱い(本タイトル): NCR1987

2.1.1(図書)

次の1～2の順に選定

1. 標題紙、奥付、背、表紙で表示されるタイトルが異なるときは、**共通するタイトル**
2. 共通するタイトルがなければ、
標題紙、奥付、背、表紙の順

標題紙、奥付、背、表紙のタイトルが異なるときは、**共通するタイトル**優先

4. タイトルの扱いータイトル・ページ優先と誤表示ー

(2) 情報源の扱い(本タイトル) : NCR2018

#2.1.1(図書の場合)

次の1～4の順に選定

1. **タイトル・ページ**
2. 1が不十分または1がない
 - a. 奥付
 - b. 背・表紙またはカバー
 - c. キャプション
3. 1・2にタイトルが表示されていない
 - a. 資料自体の他の情報源
4. 資料自体にタイトルが表示されていない
 - a. 資料外の情報源

タイトル・ページ、奥付、背、表紙のタイトルが異なるときは、**タイトル・ページ**優先

資料を識別する固有のタイトルとして十分な情報があれば、他の情報源は選ばない
(例:国立国会図書館とNational Diet Libraryは識別するための情報量は同じ)

4. タイトルの扱いータイトル・ページ優先と誤表示ー

(3) 情報源の扱い(並列タイトル・タイトル関連情報) : NCR1987

2.0.3(図書) 記述の情報源(並列タイトル)
標題紙、奥付、背、表紙
2.0.3(図書) 記述の情報源(タイトル関連情報)
標題紙、奥付、背、表紙

それぞれ**最も適切なもの**を選択

4. タイトルの扱いータイトル・ページ優先と誤表示ー

(4) 情報源の扱い(並列タイトル・タイトル関連情報) : NCR2018

#2.1.2(図書館の場合) 並列タイトル

資料自体の情報源ならどこからでも採用

※本タイトルを資料外から採用した場合は、並列タイトルも**同一の情報源**から

#2.1.3(図書館の場合) タイトル関連情報

本タイトルと同一の情報源

並列タイトル：本タイトルを別言語・別文字種で表現したもの。多元的な検索ができるように、**より広く**どこからでも採用

タイトル関連情報：本タイトルとのつながりを重視して**より狭く**採用

タイトル関連情報：必要に応じて、ほかの情報源の形を記録する別法あり

本タイトル・並列タイトル・タイトル関連情報に採用しないほかの情報源の形は、**異形タイトル**に記録し、検索を担保

4. タイトルの扱いータイトル・ページ優先と誤表示ー

(5) タイトルの記録例 : NCR1987

(**標題紙**)

国立国会図書館展

(**奥付**)

国立国会図書館展

展覧会図録

<記録例>

本タイトル

国立国会図書館展

タイトル関連情報

展覧会図録

タイトル関連情報は**奥付**から記録

4. タイトルの扱いータイトル・ページ優先と誤表示ー

(6) タイトルの記録例 : NCR2018

(タイトル・ページ)

国立国会図書館展

<記録例>

本タイトル 国立国会図書館展

異形タイトル 展覧会図録

(奥付)

国立国会図書館展

展覧会図録

タイトル関連情報は**本タイトルと同一の情報源**のもののみ記録。奥付の「展覧会図録」は、本則では**不採用**

重要とみなせば、「展覧会図録」を異形タイトルに記録可

タイトル関連情報の別法では「展覧会図録」を記録可

4. タイトルの扱いータイトル・ページ優先と誤表示ー

(7) 比較 : NCR1987・NCR2018

(タイトル・ページ)

国立国会図書館展

<NCR1987記録例>

本タイトル **国立国会図書館展**

タイトル関連情報 **展覧会図録**

(奥付)

国立国会図書館展

展覧会図録

<NCR2018記録例>

本タイトル **国立国会図書館展**

異形タイトル 展覧会図録

重要とみなせば、「展覧会図録」を異形タイトルに記録可

タイトル関連情報の別法では
「展覧会図録」を記録可

4. タイトルの扱い－タイトル・ページ優先と誤表示－

(8) 誤表示の扱い(本タイトル) : NCR1987

2.0.6.6(図書) 誤記、誤植

補記[]など訂正したことが分かる形で、**正しい形**に直して本タイトルに記録

必要なときは、**誤記・誤植・脱字のある形**を注記

資料にあるがまま記録するデータ要素でも、**誤表示**は直していた

4. タイトルの扱い－タイトル・ページ優先と誤表示－

(9) 誤表示の扱い(本タイトル) : NCR2018

#2.1.0.4.1(本則)(図書の場合) 誤表示(タイトル)

情報源に表示されているままに、**誤表示のある形**を本タイトルに記録
また、その旨を注記

重要なときは、**正しい形**に直して異形タイトルに記録

- ・ 目録作業者：資料にあるがまま記録でき、**判断に迷わない**
- ・ 利用者：**資料にあるがまま**検索できる

異形タイトルで**正しい形**の検索を担保

正しい形を本タイトルとする
別法あり

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント



この章では、責任表示の**情報源**の変更点と責任表示に記録した著者(個人・家族・団体)に対応する**典拠形アクセス・ポイント**(典拠形AP)の変更点、典拠形APに付加する**関連指示子**について紹介します。

著者に対応する典拠形AP：

著者(個人・家族・団体)の名称を、識別・同定のために統制した形のこと、NCR1987の著者標目に相当する
この研修では、図書の書誌データに慣習として適用されてきた形を例示として使用する

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(1) 情報源の扱い (責任表示)と著作の種類を示す語 : NCR1987

2.1.5(図書) 責任表示
標題紙、奥付、背、表紙
<ul style="list-style-type: none">・ 著作の種類を示す語は、著者名の後に「著、共著、作、文、画、撮影、作曲、編」等を記録・ ないときは補記[]

最も適切なものを選択

著者名の後に統制して記録

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(2) 情報源の扱い(責任表示)と役割を示す語句：NCR2018

#2.2(図書の場合)

本タイトルに関する責任表示

次の1～3の順に選定

1. **本タイトルと同一の情報源**
2. 資料自体の他の情報源
3. 資料外の情報源

役割を示す語句は、**表示のまま**記録、
表示がなくても補記は必須ではない

情報源：本タイトルとのつながりを重視

目録作業者：検索を担保するために、**資料のまま**の情報(責任表示)と、**判断して追加**する情報(典拠形AP,関連指示子)に分けて、
書誌データに記録する

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(3) 著者標目(NCR1987)と典拠形AP(NCR2018)

<NCR1987>

著者標目

(個人・団体)

<記録例：個人>

夏目, 漱石||ナツメ, ソウセキ

<記録例：団体>

日本博物館協会||ニホン
ハクブツカン キョウカイ



- ・用語の変更
- ・家族の新設

<NCR2018>

典拠形AP

(個人・家族・団体)

<記録例：個人>

夏目, 漱石||ナツメ, ソウセキ

<記録例：家族>

浅井||アサイ (家)

<記録例：団体>

日本博物館協会||ニホン
ハクブツカン キョウカイ

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(4) 典拠形APに付加する関連指示子例：NCR2018

創作者の例 #C.2.1A	非創作者の例 #C.2.1B	寄与者の例 #C.2.2A
作曲者	委託者	挿絵者
写真撮影者	責任刊行者	編者
制定法域団体	編集責任者	訳者
地図製作者		
著者		
美術制作者		
編纂者		

責任表示(資料にあるがまま記録)における「役割を示す語句」を補うなどの必要があれば、**目録作業者が判断**した役割を**関連指示子**として記録

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(5) 責任表示と対応する著者標目の記録例(著者が個人) : NCR1987

(**標題紙**)

図書館論

edited by Taro
Tanaka

(**奥付**)

図書館論

編集者 田中太郎

情報源 : 奥付の**日本語表記**を
選んで記録

著作の種類を示す語 : **統制**
して記録

<記録例>

責任表示 田中太郎編

著者標目 田中, 太郎 || タナカ, タロウ

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(6) 責任表示と対応する典拠形APの記録例(著者が個人) : NCR2018

(タイトル・ページ)

図書館論

edited by Taro
Tanaka

役割を示す語句 : **表示のまま**記録

情報源 : **本タイトルと
同一の情報源**から記録

日本語に訳して[編]などと
記録する別法あり

(奥付)

図書館論

編集者 田中太郎

<記録例>

責任表示

edited by Taro Tanaka

関連指示子 : **典拠形AP** **編者** : 田中, 太郎 || タナカ, タロウ

典拠形AP : 目録作業者が判断した**関連指示子**を記録

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(7) 比較(著者が個人) : NCR1987・NCR2018

(タイトル・ページ)

図書館論

edited by Taro
Tanaka

<NCR1987記録例>

責任表示 **田中太郎編**

著者標目 田中, 太郎 || タナカ, タロウ

(奥付)

図書館論

編集者 田中太郎

<NCR2018記録例>

責任表示

edited by Taro Tanaka

関連指示子 : 典拠形AP **編者** : 田中, 太郎 || タナカ, タロウ

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(8) 責任表示と対応する著者標目の記録例(著者が団体) : NCR1987

(標題紙)

国立国会図書館三十年史

(奥付)

国立国会図書館三十年史

編集・発行 国立国会
図書館

著作の種類を示す語 : **統制**して記録

<記録例>

責任表示 国立国会図書館**編**

著者標目 国立国会図書館 || コクリツ コツカイトシヨカン

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(9) 責任表示と対応する典拠形APの記録例(著者が団体) : NCR2018

(タイトル・ページ)

国立国会図書館三十年史

(奥付)

国立国会図書館三十年史

編集・発行 国立国会
図書館

役割を示す語句：**表示のまま**記録

<記録例>

責任表示

編集・発行 国立国会図書館

関連指示子：**典拠形AP** **著者**：国立国会図書館||コクリツ コツ
カイトシヨカン

典拠形AP：団体の管理的な性格の資料を団体自身が編集している場合は**創作者とみなす**ため、関連指示子は「**編者**」ではなく「**著者**」

5. 責任表示の扱いの変化と対応する典拠形アクセス・ポイント

(10) 比較(著者が団体) : NCR1987・NCR2018

(タイトル・ページ)

国立国会図書館三十年史

<NCR1987記録例>

責任表示 国立国会図書館編

著者標目 国立国会図書館 || コクリツ コッカイトシヨカン

(奥付)

国立国会図書館三十年史

編集・発行 国立国会
図書館

<NCR2018記録例>

責任表示 **編集・発行** 国立国会図書館

関連指示子 : 典拠形AP **著者** : 国立国会図書館 || コクリツ コッ
カイトシヨカン

6. 出版表示等

－ 区別の明確化とタイトルとのつながり重視 －



この章では、出版・頒布・製作表示の**データ要素の扱い**の変更点、**情報源**の変更点を紹介します。

6. 出版表示等 – 区別の明確化とタイトルとのつながり重視 –

(1) データ要素の区別（出版・頒布等）：NCR1987

2.4(図書)

出版・頒布等に関する事項

1. **出版地**・**出版者**・**出版年**を記録
 2. 1がなければ、**頒布地**・**頒布者**・**頒布年**を**出版事項の代わりに**
(発売)と付加して記録
 3. 1・2がなければ、**[出版地不明]**
[出版者不明]と記録
- ※著作権表示年があれば、**c**を付加
※著作権表示年がなく製作年があれば、**印刷**を付加

同じデータ要素内に出版・
頒布・製作を記録

(発売)などを付加することで、
目視では区別可能に(ただし、
システムでは区別しにくい)

6. 出版表示等 – 区別の明確化とタイトルとのつながり重視 –

(2) データ要素の明確な区別(出版表示等) : NCR2018

#2.5-#2.7/#2.9(図書の場合) 出版表示等
出版地・出版者・出版日付
頒布地・頒布者・頒布日付
製作地・製作者・製作日付
著作権日付

- ・ 出版・頒布・製作を**別のデータ要素**として区別して規定
- ・ 頒布などを出版の代わりとしない
- ・ (発売)などを付加する規定なし

システムが別々の要素として
区別しやすい規定に

区別されたデータ要素の表示方法は
システムで自由に対応可
(出版/頒布/製作を分けて表示、機械的に(発売)と付加して表示など)

6. 出版表示等 – 区別の明確化とタイトルとのつながり重視 –

(3) 情報源の扱い(出版・頒布等) : NCR1987

2.0.3(図書)
記述の情報源
(出版・頒布等)

標題紙、奥付、背、表紙

適切なものを選択

6. 出版表示等 – 区別の明確化とタイトルとのつながり重視 –

(4) 情報源の扱い(出版表示等) : NCR2018

#2.5-#2.7/#2.9(図書の場合) 出版者・出版日付等	#2.5-#2.7/#2.9(図書の場合) 出版地等
出版者・出版日付、頒布者・頒布日付、製作者・製作日付は、次の順で選定 1. 本タイトルと同一の情報源 2. 資料自体の他の情報源 3. 資料外の情報源 ※著作権日付は どこからでも 採用	出版地・頒布地・製作地は、次の順で選定 1. 出版者等と同一の情報源 2. 資料自体の他の情報源 3. 資料外の情報源

本タイトルとのつながりを重視

6. 出版表示等 – 区別の明確化とタイトルとのつながり重視 –

(5) 頒布者の記録例：NCR1987

(**標題紙**)
図書館論

TOSHOKAN
PUBLISHING

(**奥付**)
図書館論

発売
株式会社図書館出版

<記録例>
出版者 図書館出版 (**発売**)

情報源：奥付の**日本語**
表記を選択

出版者：**出版者の代わり**に頒布者を(**発売**)と付加して記録

6. 出版表示等 – 区別の明確化とタイトルとのつながり重視 –

(6) 頒布者の記録例 : NCR2018

(タイトル・ページ)

図書館論

TOSHOKAN
PUBLISHING

<記録例>

頒布者 Toshokan Publishing

情報源 : 本タイトルと同一
の情報源から採用

頒布者 : 発売は**頒布者**
として記録

(奥付)

図書館論

発売
株式会社図書館出版

並列頒布者の記録も可

並列頒布者 : 頒布者として記録されたものとは
別の言語・別の文字種で表現された頒布者

6. 出版表示等 – 区別の明確化とタイトルとのつながり重視 –

(7) 比較 : NCR1987・NCR2018

(タイトル・ページ)

図書館論

TOSHOKAN
PUBLISHING

<NCR1987記録例>

出版者 図書館出版 (**発売**)

(奥付)

図書館論

発売
株式会社図書館出版

<NCR2018記録例>

頒布者 Toshokan Publishing

7. 表現種別、機器種別、キャリア種別の追加



この章では、NCR2018で追加されたデータ要素のうち、特に重要なデータ要素として、「テキスト」や「音声」など資料の内容を表現する手段を表す**表現種別**、「冊子」や「コンピュータ・ディスク」など記録した媒体を表す**機器種別**、**キャリア種別**などの**キャリアに関する情報**を紹介します。

7. 表現種別、機器種別、キャリア種別の追加

(1) 資料種別、特定資料種別：NCR1987

書誌的事項	説明	備考
資料種別 1.1.2.1	書写資料、地図資料、 楽譜、録音資料、 映像資料、静止画資料、 電子資料、博物資料、 点字資料、マイクロ資料	任意
特定資料種別 6.5.1等	資料種別をさらに細分、特定した 名称(録音資料の「録音カセット」 など)	任意

資料の**大まかな種別**を表現

様々な表現種別を包含する電子資料の登場など、**枠組みに限界も**

7. 表現種別、機器種別、キャリア種別の追加

(2) 表現種別、機器種別、キャリア種別：NCR2018

データ要素	説明	備考
表現種別 #5.1	資料の 内容 を表現する手段を表す(テキスト、楽譜、地図、演奏など)	コア・エレメント (表現形)
機器種別 #2.15	利用に必要な 機器の種類 を表す種別(機器不用、コンピュータなど)	任意(キャリア種別とセットで記録)
キャリア種別 #2.16	記録した 媒体 とその 形状 を表す種別(冊子、シート、コンピュータ・ディスクなど)	コア・エレメント (体現形)

資料の**内容的側面**(表現種別)と**物理的側面**(機器種別、キャリア種別)を整理

記録する用語は
NCR2018で規定

7. 表現種別、機器種別、キャリア種別の追加

(3) 記録例の比較(電子資料：テキスト)：NCR1987・NCR2018



<NCR1987記録例>

資料種別 **電子資料**
特定資料種別と数量 光ディスク 1枚

内容が「テキスト」と分かる

<NCR2018記録例>

表現種別 **テキスト**
数量 コンピュータ・ディスク 1枚
機器種別 **コンピュータ**
キャリア種別 **コンピュータ・ディスク**
ファイル種別* **テキスト・ファイル**

*は任意

種類をより**詳細**に記録

利用に「コンピュータ」
が必要と分かる

記録する用語から媒体や機器
などを指定して**検索**できる

7. 表現種別、機器種別、キャリア種別の追加

(4) 記録例の比較(電子資料：地図)：NCR1987・NCR2018



<NCR1987記録例>

資料種別 **電子資料**
特定資料種別と数量 光ディスク 1枚

内容が「地図」と分かる

<NCR2018記録例>

表現種別 **地図**
数量 コンピュータ・ディスク 1枚
機器種別 **コンピュータ**
キャリア種別 **コンピュータ・ディスク**
ファイル種別* **プログラム・ファイル**

種類を**より詳細**に記録

利用に「コンピュータ」が
必要と分かる

*は任意

7. 表現種別、機器種別、キャリア種別の追加

(5) 記録例の比較(録音資料) : NCR1987・NCR2018



<NCR1987記録例>

資料種別

録音資料

特定資料種別と数量 録音ディスク 1枚 : デジタル, ステレオ

<NCR2018記録例>

表現種別

演奏

数量

オーディオ・ディスク 1枚

機器種別

オーディオ

キャリア種別

オーディオ・ディスク

録音の方式*

デジタル

録音の手段*

光学

再生チャンネル*

ステレオ

ファイル種別*

オーディオ・ファイル

内容が「演奏」と分かる

利用に「オーディオ」機器が必要と分かる(キャリア種別、録音の方式とあわせるとCDプレーヤーが必要と分かる)

*は任意

7. 表現種別、機器種別、キャリア種別の追加

(6) 記録例の比較(映像資料) : NCR1987・NCR2018



<NCR1987記録例>

資料種別

映像資料

特定資料種別と数量 **ビデオディスク 1枚 : ステレオ**

<NCR2018記録例>

表現種別

二次元動画

数量

ビデオディスク 1枚

機器種別

ビデオ

キャリア種別

ビデオディスク

録音の方式*

デジタル

録音の手段*

光学

再生チャンネル*

ステレオ

ファイル種別*

ビデオ・ファイル

内容が3Dでない

「二次元動画」と分かる

利用に「ビデオ」機器が必要と分かる

*は任意

まとめ

・ NCR2018変更のポイント

- ・ 必須のデータ要素の拡充
- ・ それぞれのデータ要素の**情報源**の明確化
- ・ 資料にある情報は、できるだけ**あるがまま**記録する
- ・ 新しいデータ要素の追加：
関連指示子(典拠形APに付加)、**表現種別**、**機器種別**、**キャリア種別**

- ・ 流通する書誌データが、NCR2018を適用することで変わっていく
- ・ 記録するデータ要素の増加、情報源の明確化などの変更：
資料の**識別性の向上**、書誌データの**機械可読性の向上**、利用者の**検索性の向上**

⇒NCR2018の**特徴**やNCR**改訂の意義**を理解し、

書誌データの作成、レファレンスでの**検索**や**データ要素の理解**に、

ぜひお役立てください！

参考資料

- (別紙1) 主なデータ要素等の情報源の変化(図書)
- (別紙2) NCR2018で規定する用語一覧：表現種別、キャリアに関する情報
- (別紙3) NCR2018での書誌データ作成演習
- (別紙4) NCR2018での書誌データ作成演習(記録例と解説)

- 日本目録規則2018年版(日本図書館協会)(参照：2022/1/27)
<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018>
- 日本目録規則(NCR)2018年版関連情報(日本図書館協会)(参照：2022/1/27)
<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-info>
- 木村麻衣子編著, 日本図書館協会目録委員会監修. 『日本目録規則2018年版』 入門. 日本図書館協会, 2022